

図3：リモデリングマウス肺より採取された気管支肺胞洗浄液（BALF）中に産生されるコラーゲンの総量。（横軸：感作から BALF 採取までの日数；縦軸：産生コラーゲン量）

厚生労働科学研究費補助金（免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業）  
総合研究報告書

ガイドライン普及のための対策とそれに伴う QOL の向上に関する研究

分担研究者 森 晶夫（独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター先端技術開発研究部長）

研究協力者

山口美也子（独）国立病院機構相模原病院臨床研究センター研究員）

北村紀子（同センター研究員）

橋本知実（同センター流動研究員）

梶山雄一郎（同センター研究生

神沼修（東京都臨床医学総合研究所主任研究員）

大村武雄（わかもと製薬創薬研究所主任研究員）

研究要旨

「かかりつけ医」を対象とした各アレルギー疾患ガイドラインの認知度、利用度に関する実態調査とそれによる現行ガイドラインの問題点の把握を行った。さらに普及を図るための課題を明らかにする目的に、成人喘息、小児喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、食物アレルギーの各ガイドラインにつき、認知率、利用率、評価を、医師の年齢層、勤務形態、専門性ごとに集計し、解析した。2年目には初年度のアレルギー疾患ガイドラインの認知度、利用度に関する実態調査が継続され、さらにデータ数を増加した。加えて、ガイドラインに沿った治療を施した前後で、患者 QOL の調査が行われた。また、新たにガイドラインの認知、利用、評価につき、はがきによる調査が実施された。これらのデータを入力、集計し、解析した。

A. 研究目的

- 1) 「かかりつけ医」を対象とした各アレルギー疾患ガイドラインの認知度、利用度に関する実態調査とそれによる現行ガイドラインの問題点の把握。
- 2) アレルギー専門の「かかりつけ医」を対象とした「ガイドライン実践プログラム」の開発とそれを利用した診療ガイドラインの普及と患者 QOL の調査。
- 3) 救急喘息患者に対応する院内非専門医へのガイドラインの普及。

B. 方法

主任研究者の須甲松信先生及び分担研究者各先生によって実施された「各アレルギー疾患ガイドラインに関する認知度、利用度、問題点に関するアンケート調査」を集計、入力、解析した。対象は、日本アレルギー協会が全国 12 地区（宇都宮、福井、東京、松江、岡山、横浜、松山、神戸、福岡、藤沢、佐賀、名古屋）で主催したアレルギー研修会場に参加した医師、および分担研究者によって実施されたアンケート調査の対象医師計 1007 名を調査した。

2年目には、2007 年度に実施された「各アレルギー疾患ガイドラインに関する認知度、利用度、問題点に関するアンケート調査」を入力、集計、解析し

た。対象は、日本アレルギー協会が全国 13 地区（大阪、延岡、府中、三重、津、東京、鹿児島、岩国、豊川、長野、埼玉、京都、名古屋）で主催したアレルギー研修会場に参加した医師 288 名を調査した。加えて、ガイドラインに基づいた治療前後での QOL 改善をターゲットとした症例調査票、成人喘息 207 例、小児喘息 17 例、鼻アレルギー 34 例につき入力、集計、解析した。各アレルギー疾患ガイドラインの認知、利用と治療方針、患者 QOL に関するハガキアンケート 1287 件を入力、集計、解析した。

C. 結果および D. 考察

宇都宮（3/25）から石巻（11/22）までの 1007 枚のアンケート調査票につき、質問項目毎に結果を入力、集計、解析した。調査対象医師の平均年齢は、歳、年齢分布は図 1 に示すように、50-59 歳が多い。性別では男性が 80%（図 2）、勤務形態では開業 58%、勤務医 39%であった（図 3）。専門分野別では、内科、小児科、呼吸器科が多い（図 4）。かかりつけ医が約 50%、専門医 24%（図 5）、日本アレルギー学会専門医 15%、呼吸器学会専門医 4%、と非専門医が大部分を占めている（図 6、7）。専門医に紹介すると答えた方が大半で、そのタイミングとしては、

治療効果が不十分、合併症などがあつた(図8)。ガイドライン認知率については、喘息ガイドライン(成人、小児)についてはよく知っている2割、おおむね知っている6割と高率であつたが(図9)、実際の診療に利用している利用率は約5割であつた(図11)。アレルギー性鼻炎ガイドラインについては、認知率、利用率は、それぞれ57%、33%、アトピー性皮膚炎ガイドラインは44%、22%、蕁麻疹ガイドラインは17%、7%、食物アレルギーガイドラインは36%、26%と低かつた。2005年と2006年の比較では、認知率、利用率ともに概ね上昇傾向にあつた。知る契機としてはガイドライン教本、学会に加えて、学術講演会、メーカーMRが多かつた(図10)。また、認知率、利用率ともに医師の年齢別の変化を認めた。ガイドラインの評価としては、無記入が多く、わかり易いは喘息で3割と高くはなかつた(図13)。

今年度分288枚のアンケート調査票につき、質問項目毎に結果を入力、集計、解析した。書式毎に症例数の最も多い大阪から豊川の184名のデータでは、開業医59%、勤務医40%で、内科30%、耳鼻科50%の構成であつた。かかりつけ医、専門医は半々、専門医資格は18%が取得してつた。ガイドラインの認知度は、成人喘息、小児喘息、アレルギー性鼻炎が概ね70%と高かつた。アトピー性皮膚炎は、25%であつた。認知する契機として、昨年度同様、ガイドライン本、学会・講演会、MRの割合が高かつた。利用率では、成人喘息、アレルギー性鼻炎で約50%、小児喘息が30%、皮膚炎で10%であつた。

治療前後のQOL比較調査では、成人喘息、小児喘息、鼻アレルギーともに、治療後にQOL評価項目の改善を認めた。喘息においては、咳、痰、喘鳴、発作、息切れ、胸が重い、苦しい、不眠のすべての項目で著明な改善を認めた(詳細はデータ参照)。ハガキアンケート調査では、アレルギー科を標榜する医師が80%以上を占め、各ガイドラインの認知度は概ね70-80%と高率であつた。利用率も喘息で80%、鼻アレルギー、アトピー性皮膚炎で70%と高率であつた。ガイドラインの診療により患者QOLが大いに向上6%、向上55%、不変35%と、QOL向上に役立つたと考える医師が多かつた。ガイドライン情報を知る機会としては、学会、学術講演会、医学雑誌が60%、研修会、MR、ガイドライン本が30%、パンフレット、インターネットが15%程度であつた。

#### E. 結論

ガイドラインの策定のみならず普及に取り組む重要性が確認された。49-59才の年齢層が最もガイドラインの認知率、利用率が高いと思われるが、そ

れ以外の年齢層への普及を図ることも大切である。

ガイドラインの有用性が支持される。策定のみならず普及に取り組む重要性が確認された。専門医とかかりつけ医、医師の年齢層、地域性等を考慮し、いっそうの普及を図ることが求められる。

#### F. 健康危惧情報

該当なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) Mori, A., Ogawa, K., Kajiyama, Y., and Kaminuma, O. 2006. Th2 cell-mediated chemokine synthesis is involved in allergic airway inflammation in mice. *Int. Arch. Allergy Immunol.* 140:51-54.
- 2) Hashimoto, T., Kobayashi, N., and Mori, A. 2006. IL-12-induced IL-13 production by allergen-specific human helper T cell clones. *Int. Arch. Allergy Immunol.* 140:55-58.
- 3) Kitamura, N., Kitamura, F., Kaminuma, O., Miyatake, S., Tatsumi, H., Nemoto, S., and Mori, A. 2007. IL-4 gene transcription in human T cells is suppressed by T-bet. *Int. Arch. Allergy Immunol.* 143 (suppl 1):68-70.
- 4) Umezu-Goto, M., Kajiyama, Y., Kobayashi, N., Kaminuma, O., Suko, M., and Mori, A. 2007. IL-9 production by peripheral blood mononuclear cells of atopic asthmatics. *Int. Arch. Allergy Immunol.* 143 (suppl 1):76-79.
- 5) Hashimoto, T., Kitamura, N., Kobayashi, N., Suko, M., Kaminuma, O., and Mori, A. 2007. Effect of Formoterol on allergen-induced cytokine synthesis by atopic asthmatics. *Int. Arch. Allergy Immunol.* 143 (suppl 1):106-109.
- 6) Kajiyama, Y., Umezu-Goto, M., Kobayashi, N., Takahashi, K., Fukuchi, Y., and Mori, A. 2007. IL-2-induced IL-9 production by allergen-specific human helper T cell clones. *Int. Arch. Allergy Immunol.* 143 (suppl 1):71-75.
- 7) Mori, A., Ogawa, K., Someya, K., Kunori, Y., Nagakubo, D., Yoshie, O., Kitamura, F., Hiroi, T., and Kaminuma, O. 2007. Selective suppression of Th2-mediated airway eosinophil infiltration by low-molecular weight CCR3 antagonists. *Int. Immunol.* 19:

913-921.

- 8) Taniguchi, M., Tsurikisawa, N., Higashi, N., Saito, H., Mita, H., Mori, A., Sakakibara, H., and Akiyama, K. 2007. Treatment for Churg-Strauss syndrome. Induction of remission and efficacy of intravenous immunoglobulin therapy. *Allergology International* 56:97-103.
  - 9) Kitamura, N., Kaminuma, O., and Mori, A. 2008. A contraction assay system using established human bronchial smooth muscle cells. *Int. Arch. Allergy Immunol.* 2008 (in press)
  - 10) Otomo, T., Miyatake, S., Kajiyama, Y., Umezū-Goto, M., Kobayashi, N., Kaminuma, O., and Mori, A. 2008. Airway eosinophilic inflammation is attenuated in conserved noncoding sequence-1 deficient mice. *Int. Arch. Allergy Immunol.* (in press)
  - 11) Kaminuma, O., Mori, A., Kitamura, N., Hashimoto, T., Kitamura, F., Inokuma, S., and Miyatake, S. 2008. Role of GATA-3 in IL-5 gene transcription by CD4<sup>+</sup> T cells of asthmatic patients. *Int. Arch. Allergy Immunol.* (in press)
  - 12) 粒来崇博、釣木澤尚美、森田園子、押方智也子、小野恵美子、大友 守、前田裕二、森 晶夫、池原邦彦、谷口正実、秋山一男：気管支喘息患者における、抗原吸入試験の即時反応に伴う呼気一酸化窒素濃度 (Exhaled Nitric Oxide) の変化、アレルギー 56(5) : 470-476, 2007.
  - 13) 小野恵美子、前田裕二、森 晶夫、谷本英則、福富友馬、押方智也子、関谷潔史、粒来 嵩博、釣木澤尚美、大友守、谷口正実、長谷川眞紀、宮崎英士、熊本俊秀、秋山一男：夏型過敏性肺臓炎一家族内発症例における、発症例と非発症例の免疫学的検討、日呼吸会誌 45(7) : 566-571, 2007
2. 学会発表
- 1) Mori, A., Kitamura, N., Hashimoto, T., Taniguchi, M., Otomo, M., Maeda, Y., Hasegawa, M., and Akiyama, K. IL-5 production in response to *Candida albicans* secretory aspartic protease 2 is associated to isolated late-phase bronchial response upon inhalation challenge. 2007 American Academy of Allergy, Asthma, and Immunology Annual Meeting. *J. Allergy Clin. Immunol.* 119:S44 (San Diego) 2007. 2. 23-28
  - 2) 森 晶夫、梶山雄一郎、谷口正実、大友 守、前田裕二、長谷川眞紀、秋山一男：難治性喘息の成因とそのフェノタイプ、シンポジウム8「難治性喘息の成因と治療」第46回日本呼吸器学会学術講演会 J. Jap. Respir. Soc. 44 : 40, 2006 (東京)
  - 3) 森 晶夫、梶山雄一郎、前田裕二、谷口正実、大友 守、長谷川眞紀、秋山一男、神沼修：T細胞サイトカイン産生制御と気道好酸球浸潤、過敏性の関連第56回日本アレルギー学会秋季学術大会シンポジウム2「Th1/Th2パラダイムの再評価—マウスからヒトへ—」、Jpn. J. Allergol. 55: 1010, 2006. 11. 2 (東京)
  - 4) 森 晶夫：免疫異常 (T細胞サイトカイン産生) からみたアレルギー、フォーラム V. アレルギー・花粉症・シックハウス症候群、フォーラム 2006 衛生薬学・環境トキシコロジー、J. Health Science 52:80, 2006. 10. 30 (東京)
  - 5) 森 晶夫、前田裕二、谷口正実、大友 守、長谷川眞紀、秋山一男：非アトピー型喘息の発症機序—非 IgE 依存性遅発型喘息反応、The 14th Symposium of Asthma in Tokyo、抄録集 p. 5, 2006. 12. 16 (東京)
  - 6) 小野恵美子、谷口正実、三田晴久、押方智也子、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、秋山一男：アナフィラキシー症状の際の尿中ロイコトリエン E4 濃度、第 18 回日本アレルギー学会春季臨床大会、アレルギー 55:443, 2006 (東京)
  - 7) 押方智也子、谷口正実、小野恵美子、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、三富弘之、中村万理、小倉高志、秋山一男：ステロイドとシクロフォスファミド抵抗性の著明な上腸間膜動脈狭窄を呈した Churg-Strauss 症候群の一部検例、第 18 回日本アレルギー学会春季臨床大会、アレルギー 55:443, 2006 (東京)
  - 8) 小野恵美子、前田裕二、押方智也子、粒来崇博、釣木澤尚美、谷口正実、大友 守、森 晶夫、長谷川眞紀、松野 治、宮崎英士、熊本俊秀、朝比奈昭彦、石井豊太、秋山一男：植物由来食品によるアレルギー症例の検討、第 18 回日本アレルギー学会春季臨床大会、アレルギー 55:470, 2006 (東京)
  - 9) 小野恵美子、前田裕二、押方智也子、粒来崇博、釣木澤尚美、谷口正実、大友 守、森 晶夫、長谷川眞紀、朝比奈昭彦、石井豊太、秋山一男：

- 植物由来食品によるアナフィラキシー症例の検討、第 18 回日本アレルギー学会春季臨床大会、アレルギー 55:471, 2006 (東京)
- 10) 谷口正実、東 憲孝、三田晴久、伊藤伊津子、押方智也子、小野恵美子、粒来崇博、釣木澤尚美、東 愛、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、秋山一男：アスピリン喘息患者における自然発作時の尿中ロイコトリエン E4 濃度、第 18 回日本アレルギー学会春季臨床大会、アレルギー 55:475, 2006 (東京)
  - 11) 押方智也子、谷口正実、小野恵美子、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、秋山一男：高齢発症非喫煙喘息患者の臨床像、第 46 回日本呼吸器学会学術講演会 日本呼吸器学会雑誌 44 : 286, 2006 (東京)
  - 12) 谷口正実、小野恵美子、押方智也子、山本一博、石井豊太、谷本英則、福富友馬、関谷潔史、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、三田晴久、秋山一男：喘息患者において鼻ポリープを治療すると尿中ロイコトリエン E4 濃度は低下する、第 57 回臨床アレルギー研究会、アレルギーの臨床 353:92(1068), 2006 (東京)
  - 13) 後藤牧子、梶山雄一郎、森 晶夫：喘息症例の末梢血 T 細胞における IL-9 産生 1、アレルギー好酸球研究会 2006 抄録集 p. 27, 2006. 6. 24 (東京)
  - 14) 梶山裕一郎、後藤牧子、森 晶夫：喘息症例の末梢血 T 細胞における IL-9 産生 2、アレルギー好酸球研究会 2006 抄録集 p. 28, 2006. 6. 24 (東京)
  - 15) 北村紀子、橋本知実、森 晶夫、神沼修： $\beta 2$  作動薬による T 細胞サイトカイン産生制御、アレルギー好酸球研究会 2006 抄録集 p. 30, 2006. 6. 24 (東京)
  - 16) 神沼修、北村紀子、森 晶夫：ヒト Th1/Th2 分化における T-bet の機能、アレルギー好酸球研究会 2006 抄録集 p. 11, 2006. 6. 24 (東京)
  - 17) 神沼修、北村ふじ子、北村紀子、巽英樹、根本壮一、廣井隆親、森 晶夫、宮武昌一郎：アレルギー患者における Th2 シフトに対する特異的転写因子の役割、第 5 6 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 55:MS6-6, 2006 (東京)
  - 18) 小野恵美子、谷口正実、東 憲考、東 愛、谷本英則、福富友馬、押方智也子、関谷潔史、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、伊藤伊津子、三田晴久、秋山一男：アナフィラキシー患者における尿中ロイコトリエン E4 とプロスタグランジン D2 代謝産物、第 5 6 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 55 : 78, 2006 (東京)
  - 19) 福富友馬、前田裕二、谷本英則、押方智也子、小野恵美子、関谷潔史、粒来崇博、釣木澤尚美、谷口正実、大友 守、森 晶夫、長谷川眞紀、秋山一男：当院における抗原吸入気道誘発試験の検討、第 5 6 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 55 : 228, 2006 (東京)
  - 20) 小野恵美子、前田裕二、谷本英則、福富友馬、押方智也子、関谷潔史、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、森 晶夫、長谷川眞紀、三田晴久、秋山一男：夏型過敏性肺臓炎の家族内発症例についての検討、第 5 6 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 55 : 252, 2006 (東京)
  - 21) 谷本英則、谷口正実、関谷潔史、押方智也子、福富友馬、小野恵美子、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、秋山一男：高容量 ICS や  $\beta$  刺激薬の吸入で肺機能が改善しない重症喘息例—モデリングといえるのか、第 5 6 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 55 : 272, 2006 (東京)
  - 22) 前田裕二、小野恵美子、福富友馬、谷本英則、関谷潔史、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、森 晶夫、長谷川眞紀、秋山一男：花粉および果物等植物由来食物抗原とハンノキ花粉との RAST 値の相関について、第 5 6 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 55:296, 2006 (東京)
  - 23) 谷口正実、東 憲考、小野恵美子、東 愛、谷本英則、福富友馬、関谷潔史、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、伊藤伊津子、三田晴久、秋山一男：アスピリン不耐皮疹には少なくとも 2 つの病型がある—ロイコトリエン過剰産生型と非過剰産生型の提唱、第 5 6 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 55 : 430, 2006 (東京)
  - 24) 関谷潔史、谷口正実、東 憲考、東 愛、谷本英則、福富友馬、小野恵美子、押方智也子、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、伊藤伊津子、三田晴久、秋山一男：非アスピリン喘息では、アスピリン投与後に尿中ロイコトリエン E4 濃度は低下する、第 5 6 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 55 : 431, 2006 (東京)
  - 25) Kitamura N, Nagakubo D, Ogawa K, Kaminuma O, Hiroi T, Yoshie O, Mori A : Multiple

- chemokines are required for T cell-mediated lung inflammation, 2006 日本免疫学会総会・学術集会記録 第36巻:77, 2006 (大阪) Mori, A. 2007. Meet the Expert “New aspects of pathogenesis of asthma”. World Allergy Congress 2007. WAO final program p.58 Bangkok, Thailand.
- 26) Mori A., Kitamura N, Otomo, T., Yamaguchi, M., Kajiyama, Y., Taniguchi M, Maeda Y, Otomo M, Mita, H., Hasegawa M, Akiyama K, Kaminuma, O. : IL-5 production in response to *Candida albicans* secretory aspartic protease 2 is the marker of isolated late-phase bronchial response upon inhalation challenge for nonatopic asthma. World Allergy Congress 2007 WAO final program p.75 (Bangkok)
- 27) Mori, A., Goto, M., Kajiyama, Y., Kitamura, N., Maeda, Y., Taniguchi, M., Otomo, M., Hasegawa, M., Akiyama, K., Kaminuma, O. Refractory asthma - from an immunological viewpoint. 第47回日本呼吸器学会学術講演会 International symposium 2. Refractory asthma. J. Jpn. Respir. Soc. 45:63. 2007 (東京)
- 28) 森 晶夫, 神沼 修, 前田裕二, 谷口正実, 大友 守, 長谷川眞紀, 三田晴久, 秋山一男: 非アトピー型喘息反応への *Candida* 抗原の関与, 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会シンポジウム15「難治性アレルギー疾患における真菌の役割」, アレルギー 56:999, 2007 (横浜)
- 29) 森 晶夫, 北村紀子, 大友隆之, 前田裕二, 谷口正実, 大友 守, 長谷川眞紀, 秋山一男, 神沼修: ステロイド抵抗性をめぐって, The 15th Symposium of Asthma in Tokyo, 抄録集 p.10, 2007 (東京)
- 30) 福富友馬, 前田裕二, 谷本英則, 小野恵美子, 押方智也子, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚美, 大友 守, 谷口正実, 森 晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: 当院におけるHDによる抗原吸入負荷試験の検討, 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007 (東京)
- 31) 関谷潔史, 谷口正実, 谷本英則, 福富友馬, 小野恵美子, 押方智也子, 粒来崇博, 釣木澤尚美, 大友 守, 前田裕二, 森 晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: 喘息と誤って診断された非喘息症例の検討, 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007 (東京)
- 32) 小野恵美子, 谷口正実, 三田晴久, 東 憲孝, 谷本英則, 福富友馬, 押方智也子, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚美, 大友 守, 前田裕二, 森 晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: 好酸球形肺炎においてもロイコトリエン過剰産生を認める, 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007 (東京)
- 33) 小野恵美子, 粒来崇博, 谷口正実, 谷本英則, 福富友馬, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚美, 大友 守, 前田裕二, 森 晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: 咳喘息の鑑別診断に呼気 NO は有用か, 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2007 (横浜)
- 34) 谷本英則, 谷口正実, 福富友馬, 押方智也子, 小野恵美子, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚美, 大友 守, 前田裕二, 森 晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: ステロイド抵抗性重症喘息として治療されていた心因症VCDの1例, 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2007 (横浜)
- 35) 谷本英則, 谷口正実, 小野恵美子, 福富友馬, 押方智也子, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚美, 大友 守, 前田裕二, 森 晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: インフリキシマブによるアナフィラキシーの1例, 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2007 (横浜)
- 36) 福富友馬, 前田裕二, 森 晶夫, 谷本英則, 小野恵美子, 押方智也子, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚美, 大友 守, 谷口正実, 長谷川眞紀, 秋山一男: ダニアレルゲンとHDアレルギー管支吸入による喘息反応の差異, 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2007 (横浜)
- 37) 押方智也子, 釣木澤尚美, 齋藤明美, 粒来崇博, 谷本英則, 福富友馬, 小野恵美子, 関谷潔史, 大友 守, 前田裕二, 森 晶夫, 長谷川眞紀, 谷口正実, 安枝 浩, 秋山一男: 当センターにおける免疫学的血清診断法—沈降抗体反応—373症例の臨床的検討, 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2007 (横浜)
- 38) 関谷潔史, 谷口正実, 谷本英則, 福富友馬, 小野恵美子, 押方智也子, 粒来崇博, 釣木澤尚美, 大友 守, 前田裕二, 森 晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: 自覚症状による分類がステップ1の成人喘息は軽症といえるのか, 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2007 (横浜)
- 39) 小野恵美子, 谷口正実, 東 憲孝, 東 愛, 谷本英則, 福富友馬, 押方智也子, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚美, 大友 守, 前田裕二, 森 晶夫, 長谷川眞紀, 伊藤伊津子, 三田晴久, 秋山一男: アナフィラキシー患者における尿中ロ

- イコトリエンE4 とプロスタグランディンD2 代謝産物、第 59 回臨床アレルギー研究会、2007 (東京)
- 40) 梶山雄一郎、大友隆之、宮武昌一郎、森 晶夫：喘息モデルマウスにおける Conserved noncoding sequence (CNS-1) の解析、アレルギー好酸球研究会 2007 (東京)
- 41) 神沼 修、森 晶夫、北村紀子、巽 英樹、根本荘一、北村ふじ子、宮武昌一郎、廣井隆親：ヒト末梢血 T 細胞における Th1/Th2 分化の不完全性とその要因、アレルギー好酸球研究会 2007 (東京)
- 42) 北村紀子、森 晶夫：ヒト気管支平滑筋細胞の包埋培養コラーゲンゲルを用いた収縮実験系の確立、アレルギー好酸球研究会 2007 (東京)
- 43) 谷本英則、谷口正実、粒来崇博、福富友馬、押方智也子、小野恵美子、関谷潔史、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、秋山一男：喘息として加療されていた、気道病変主体の再発性多発性軟骨炎の 1 例、第 175 回日本呼吸器学会関東地方会、2007 (東京)
- 44) 関谷潔史、谷口正実、谷本英則、福富友馬、小野恵美子、押方智也子、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、秋山一男：慢性咳嗽における咳喘息の誤診断症例の臨床的検討、第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 56:1087, 2007 (横浜)
- 45) 谷本英則、竹内保雄、谷口正実、関谷潔史、福富友馬、小野恵美子、押方智也子、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、斎藤明美、安枝 浩、秋山一男：ABPA におけるリモデリング、気道過敏性と気道可逆性の特徴、第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 56:1089, 2007 (横浜)
- 46) 神沼 修、北村ふじ子、宮武昌一郎、巽 英樹、根本荘一、北村紀子、森 晶夫、廣井隆親：T-bet は T 細胞の IL-13 産生を遺伝子転写レベルで制御する、第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 56:1103, 2007 (横浜)
- 47) 小野恵美子、三田晴久、粒来崇博、谷口正実、東 憲孝、梶原景一、伊藤伊津子、谷本英則、福富友馬、押方智也子、関谷潔史、釣木澤尚美、大友 守、森 晶夫、長谷川眞紀、秋山一男：呼気凝縮液と肺胞洗浄液の比較、ロイコトリエン濃度を用いた検討、第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 56:1123, 2007 (横浜)
- 48) 福富友馬、谷口正実、谷本英則、押方智也子、小野恵美子、関谷潔史、粒来崇博、釣木澤尚美、大友 守、森 晶夫、長谷川眞紀、秋山一男：成人アナフィラキシー 63 例の臨床的検討、第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 56:1135, 2007 (横浜)
- 49) 押方智也子、釣木澤尚美、斎藤明美、粒来崇博、谷本英則、福富友馬、小野恵美子、関谷潔史、大友 守、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、谷口正実、安枝 浩、秋山一男：アレルギー性気管支肺真菌症と真菌感作された成人喘息の比較検討、第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 56:1145, 2007 (横浜)
- 50) 谷口正実、東 憲孝、小野恵美子、関谷潔史、大友 守、谷本英則、福富友馬、押方智也子、粒来崇博、釣木澤尚美、前田裕二、森 晶夫、長谷川眞紀、山本一博、石井豊太、三田晴久、秋山一男：NSAIDs 過敏喘息におけるアスピリン負荷時と安定期の症状比較、第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会、アレルギー 56:1184, 2007 (横浜)
- 51) Yamaoka, K., Okayama, Y., Kaminuma, O., Katayama, N., Mori, A., and Hiroi, T.: A proteomic approach to study signal transduction of mast cell activation by Fc $\cdot$ RI aggregation. 第 37 回日本免疫学会総会、Proc. Jap. Soc. Immunol. 37: 193, 2007 (東京)
- 52) Kaminuma, O., Kitamura, F., Miyatake, S., Kitamura, N., Mori, A., and Hiroi, T.: ヒト末梢血 T 細胞における Th1/Th2 分化の不完全性、第 37 回日本免疫学会総会、Proc. Jap. Soc. Immunol. 37: 240, 2007 (東京)
- 53) 北村紀子、清河信敬、片桐洋子、板垣光子、宮川世志幸、大喜多肇、森晶夫、藤本純一郎：小児悪性リンパ腫における Granulysin 発現の解析、第 49 回小児血液学会抄録集 p. 289, 2007 (仙台)
- H. 知的所有権の取得状況
1. 特許取得  
なし
  2. 実用新案登録  
なし
  3. その他  
なし

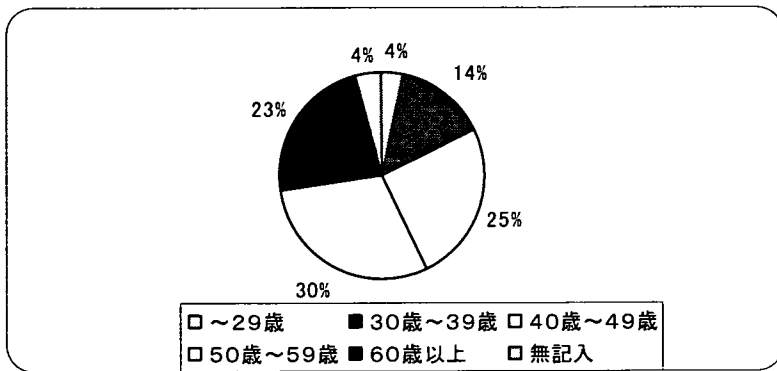


図 1 . 年 齢 分 布

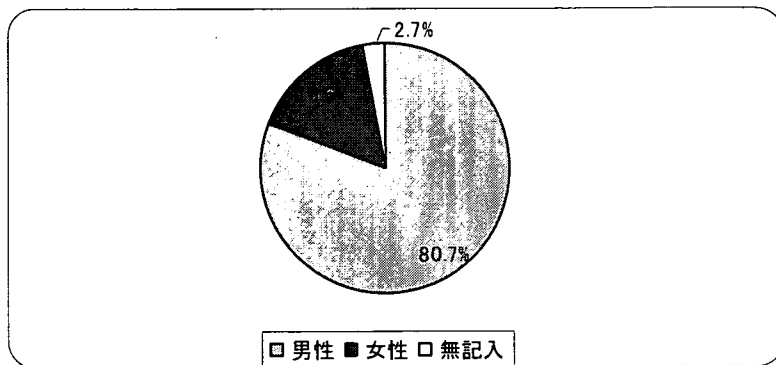


図 2 . 性 別

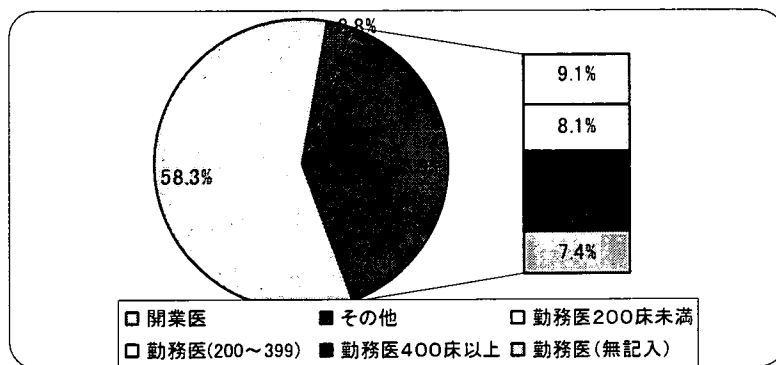


図 3 . 勤 務 形 態



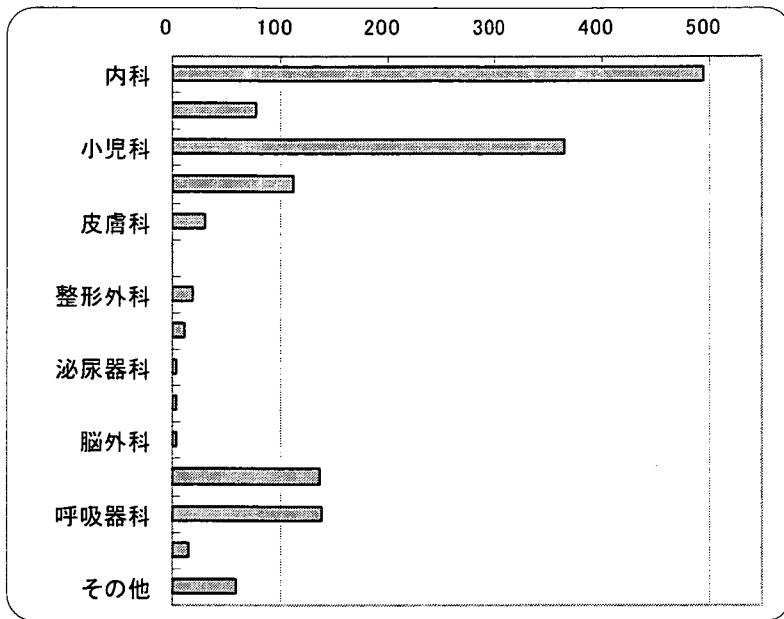


図 4 . 専門分野

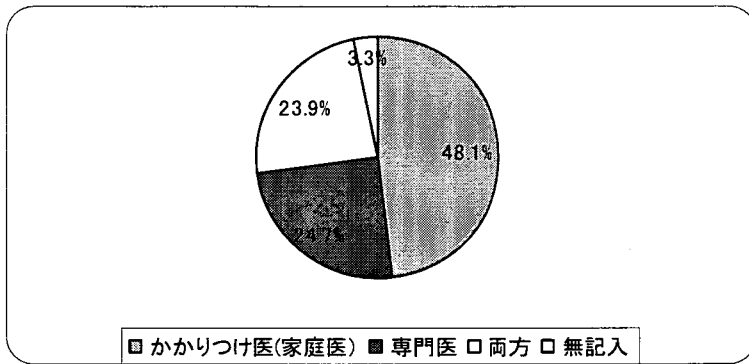


図 5 . かかりつけ医か専門医か

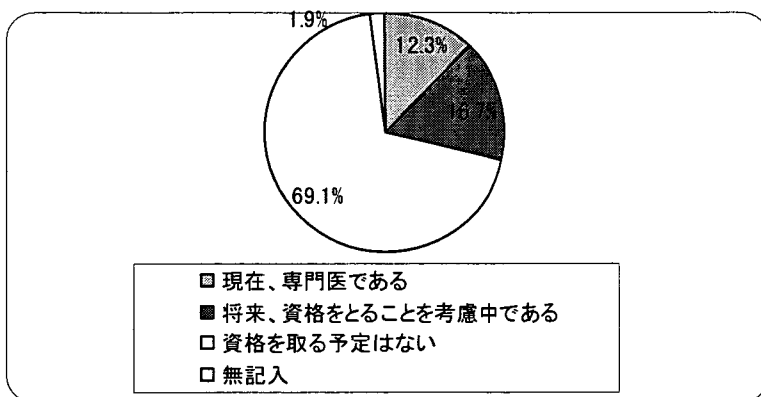


図 6 . アレルギー学会認定専門医か否か

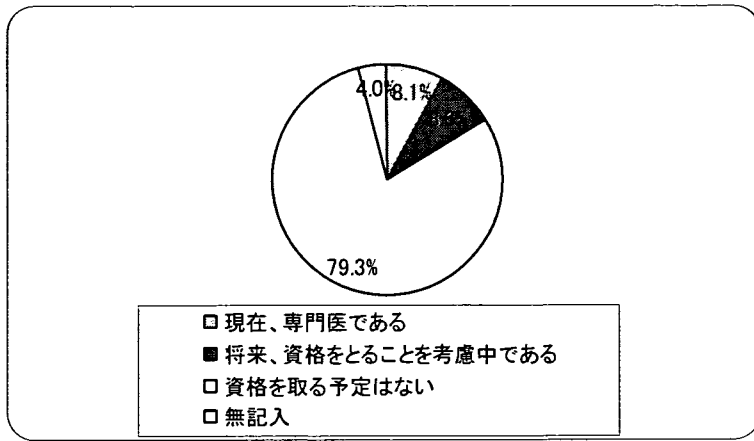


図 7 . 呼吸器学会認定専門医か否か

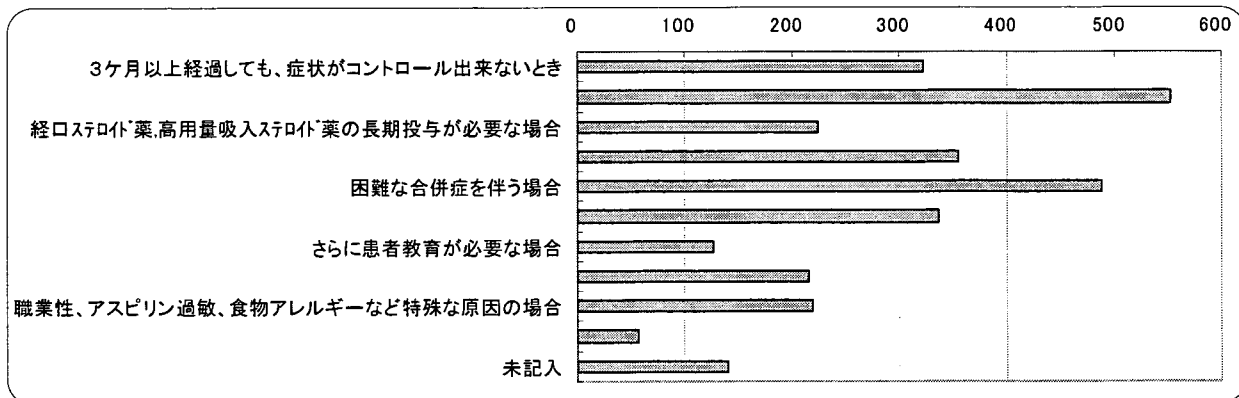
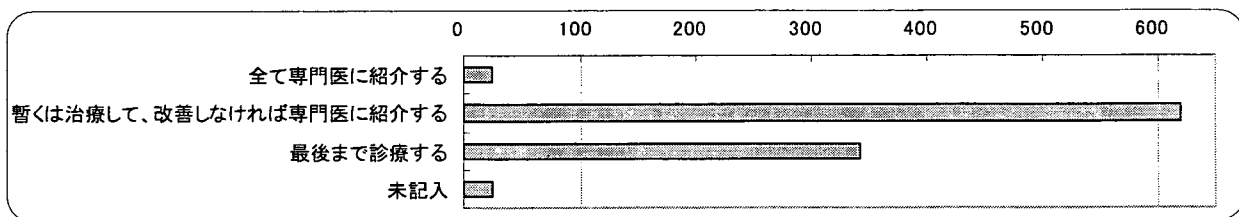


図 8 . 専門医紹介の対応

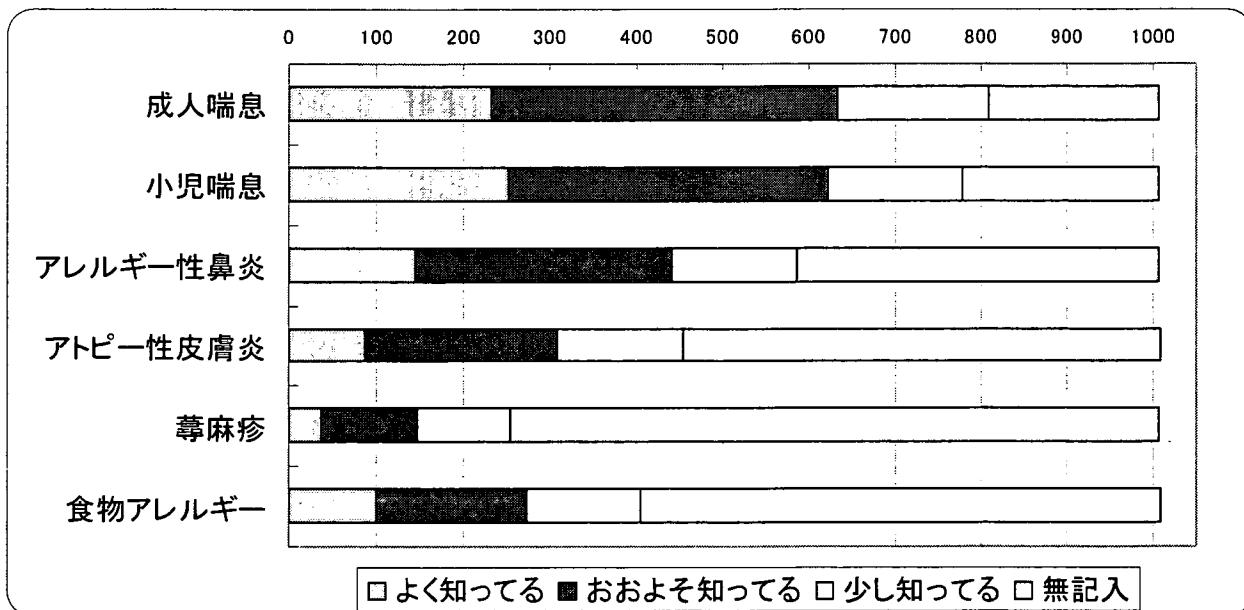
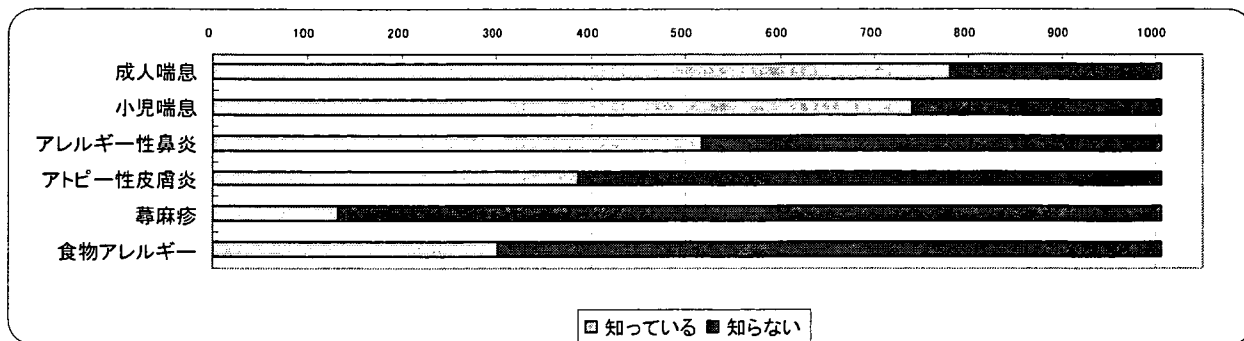


図 9 . ガイドライン認知度

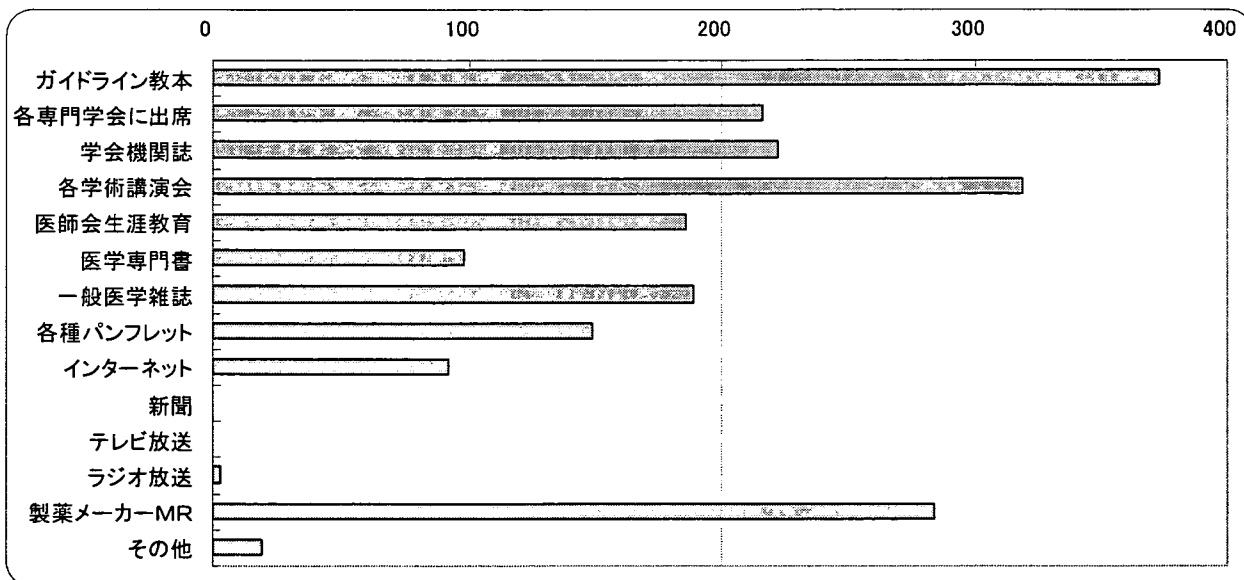


図 10 . 認知機会

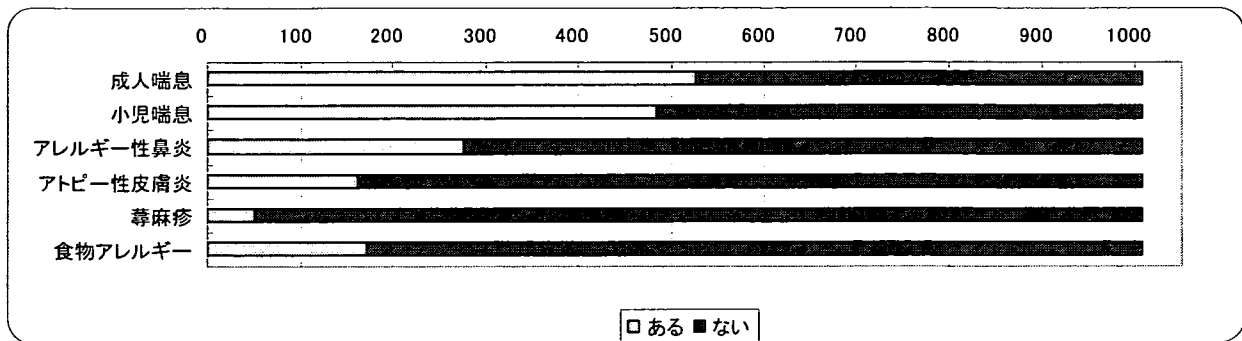


図 1 1 . ガイドラインの利用度

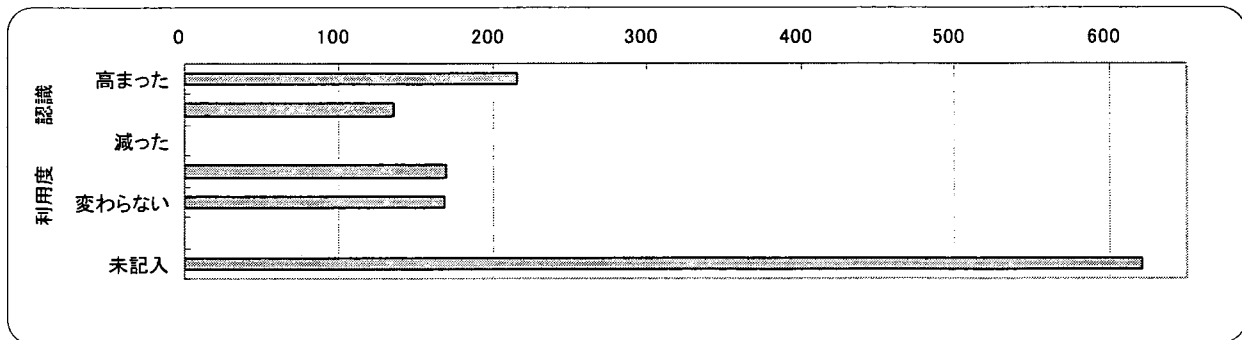


図 1 2 . 研修会出席によりガイドライン利用が高まったか

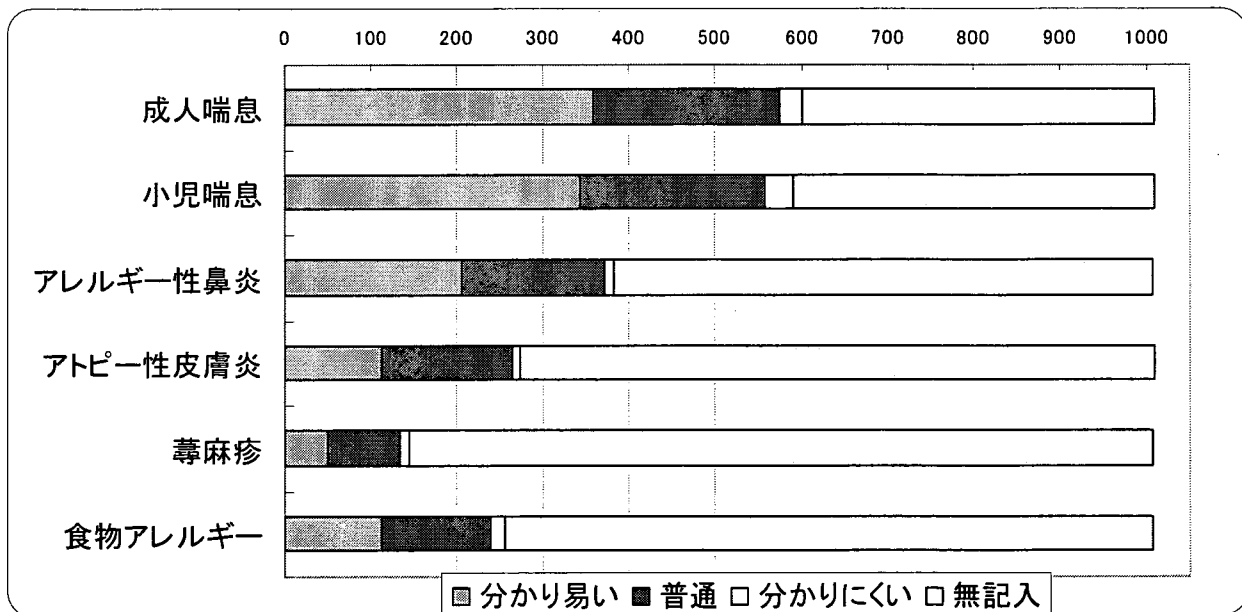


図 1 3 . ガイドラインの評価

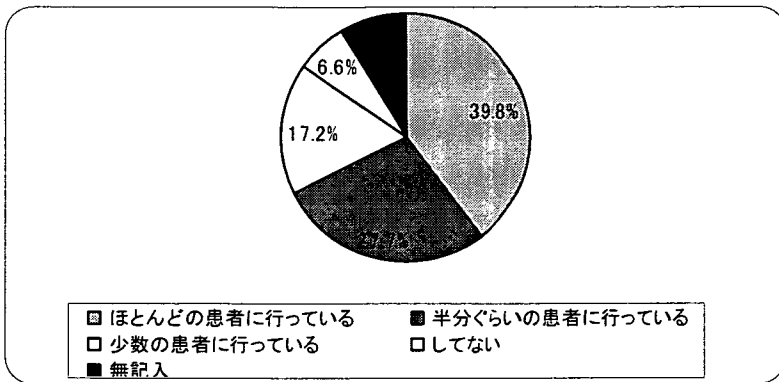


図 1 4 . 吸入ステロイド治療の頻度

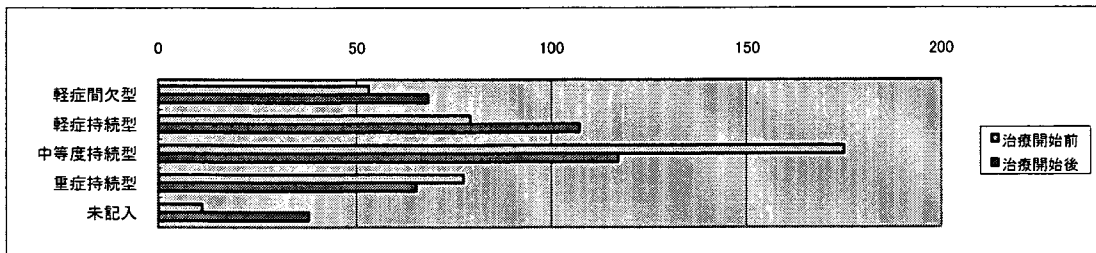
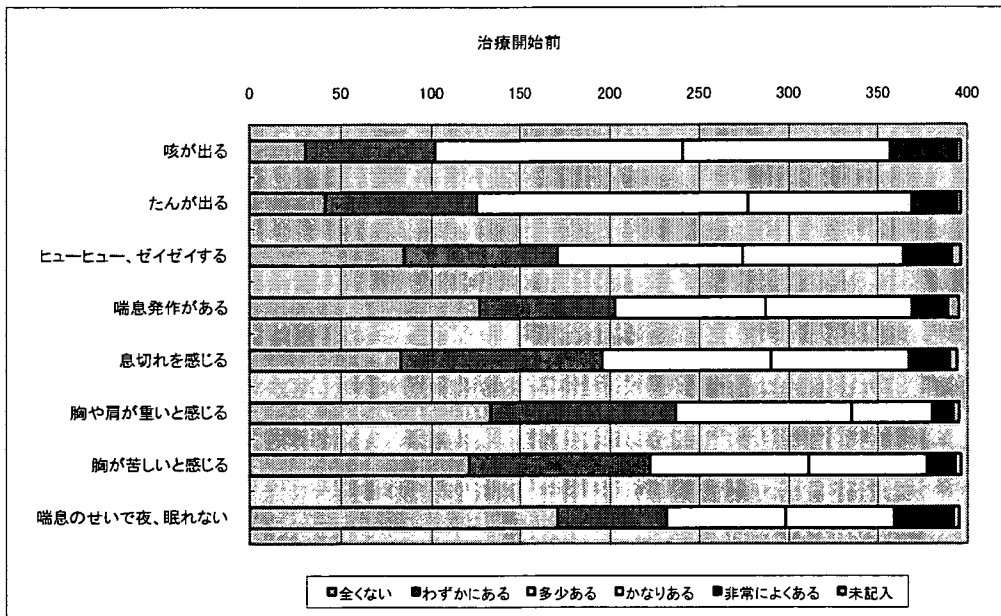


図 1 5 . 治療開始前後の重症度（成人喘息）



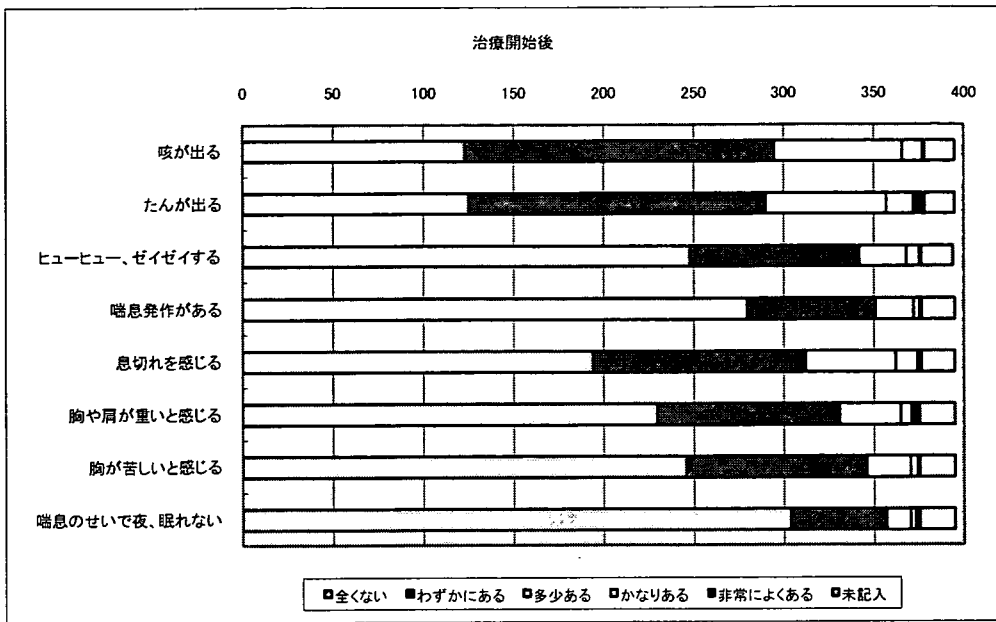


図 16. 治療開始前後での症状の推移（成人喘息）

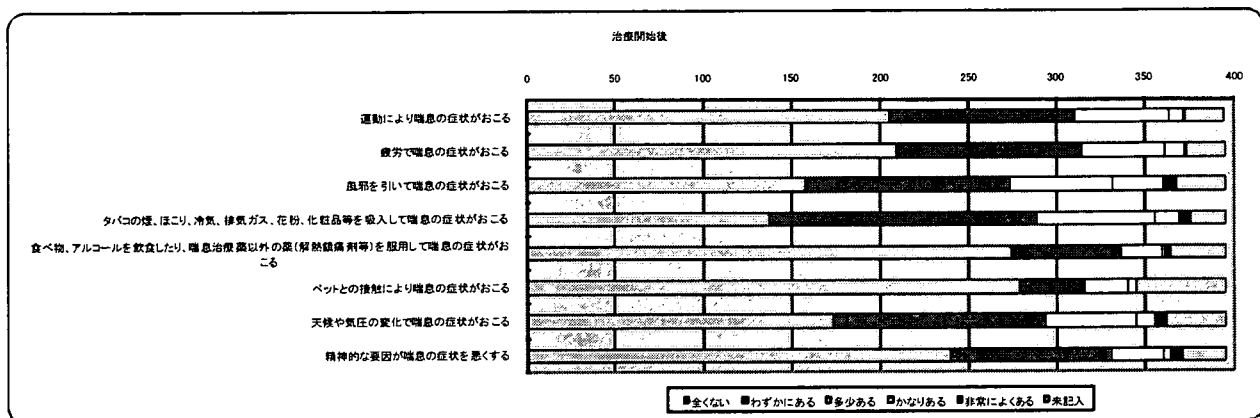
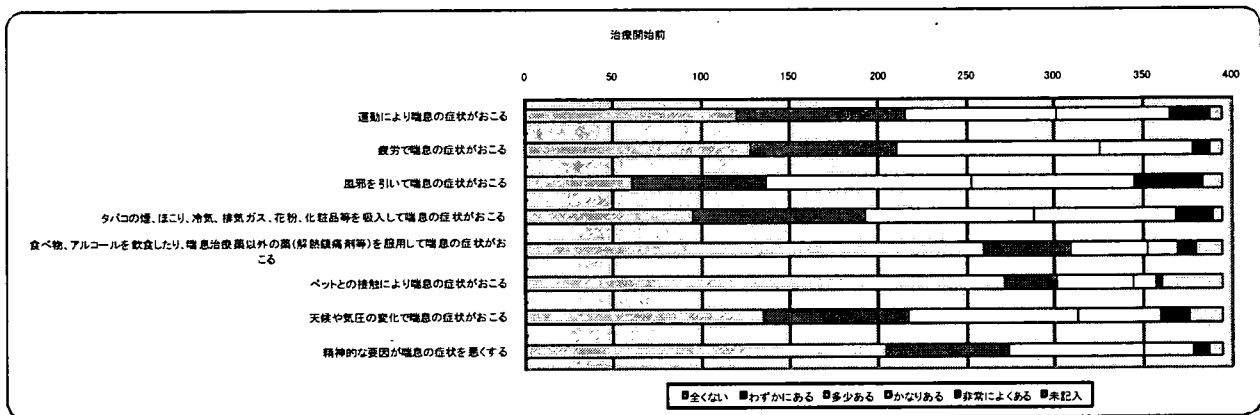


図 17. 治療開始前後での症状の推移（成人喘息）

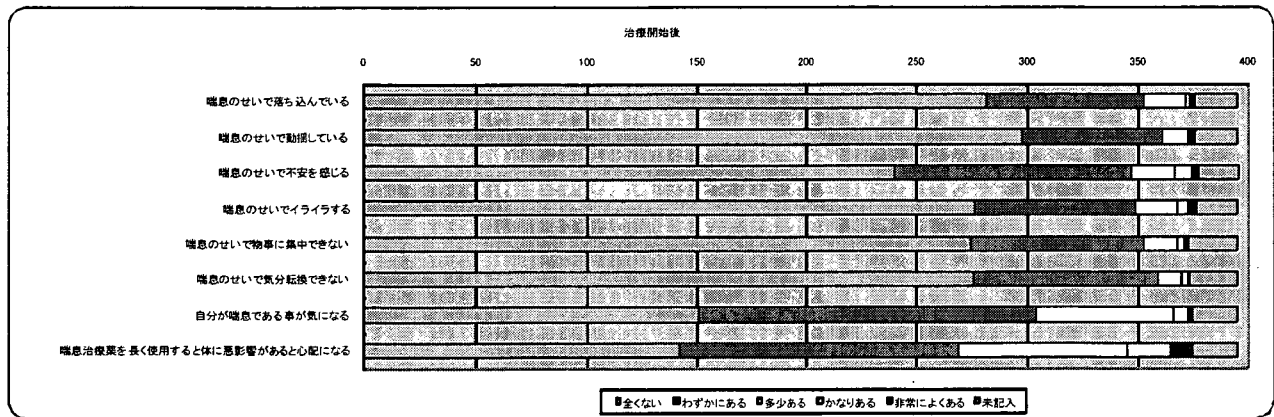
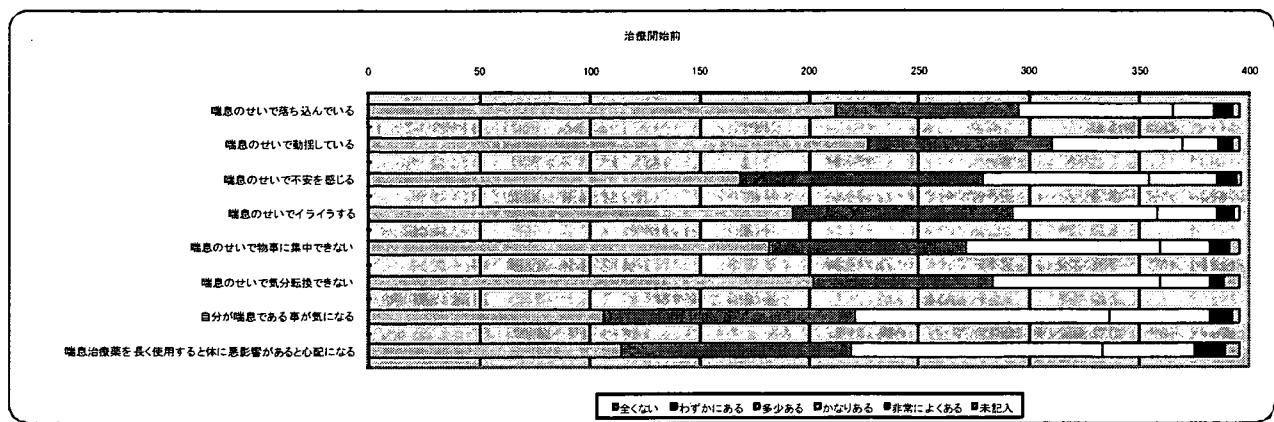


図 18. 治療開始前後での誘因の推移 (成人喘息)

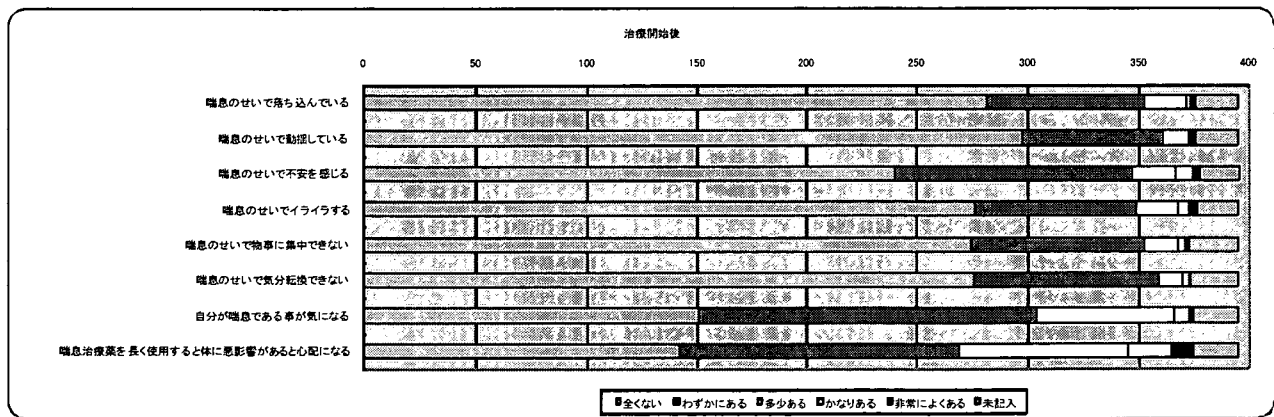
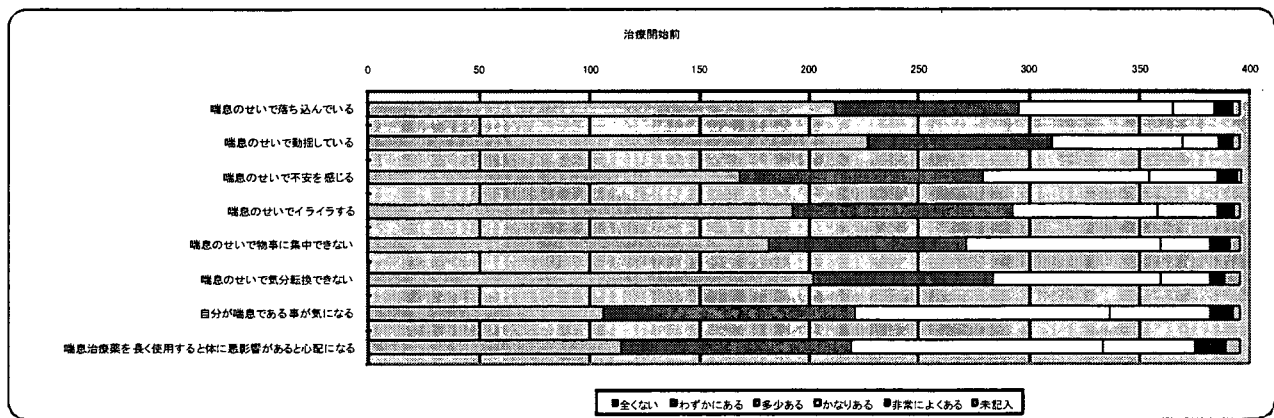


図 19. 治療開始前後での精神的影響の推移 (成人喘息)

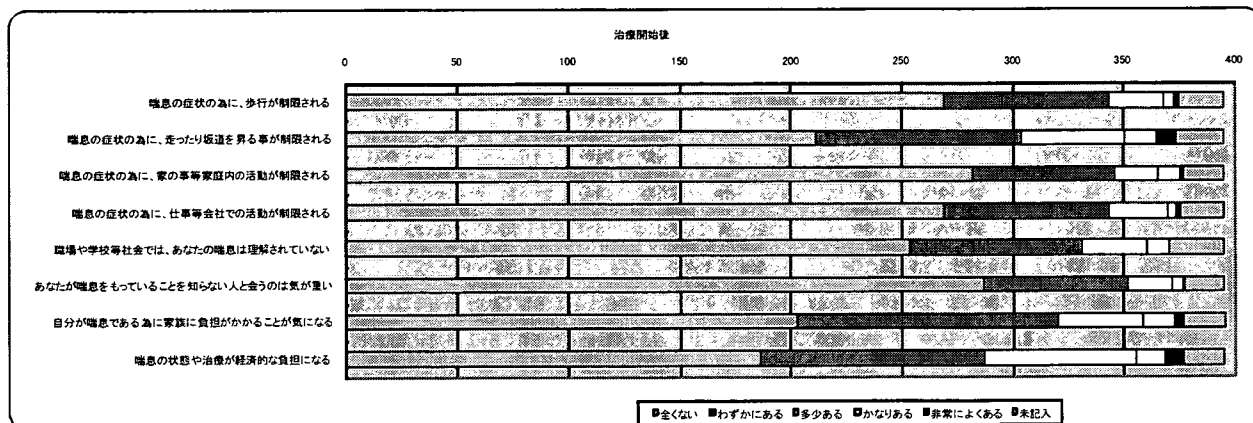
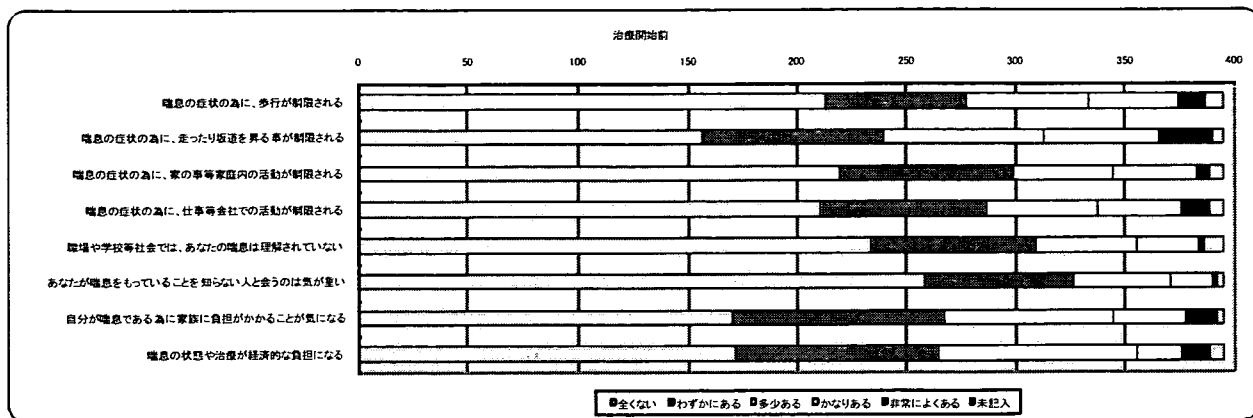


図 20. 治療開始前後での生活・社会的影響の推移（成人喘息）

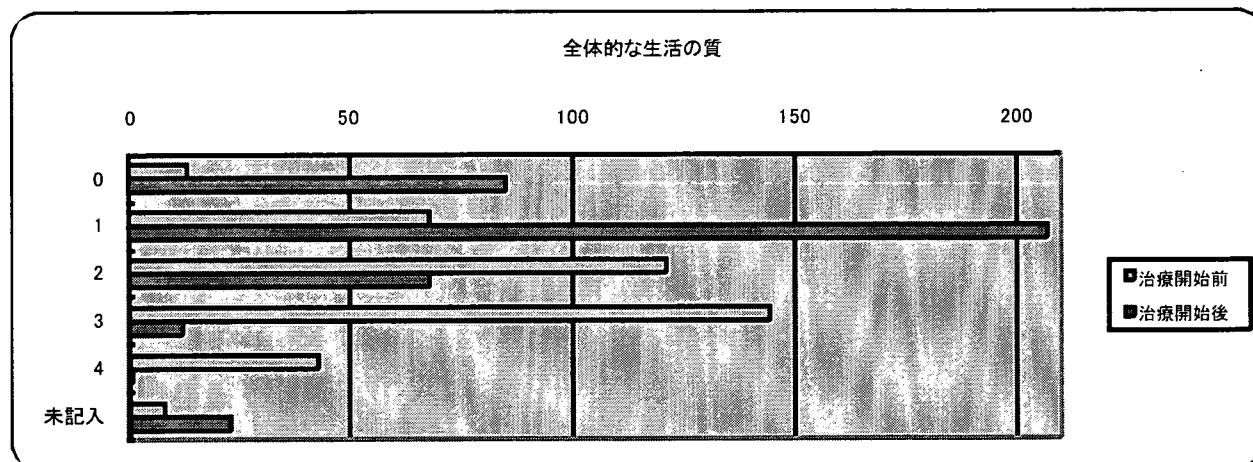


図 21. 治療開始前後での QOL 全般の推移（成人喘息）

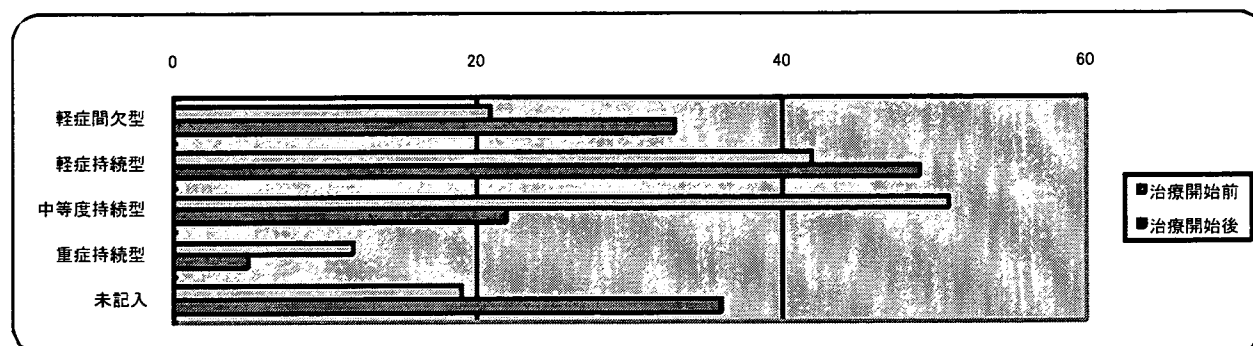


図 22. 治療開始前後の重症度（小児喘息）



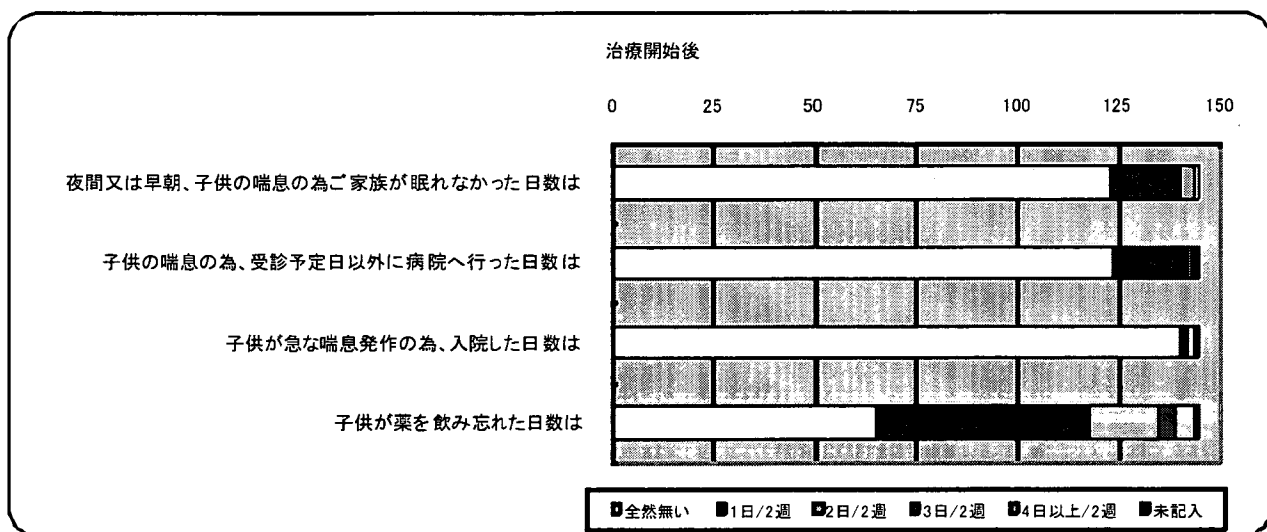
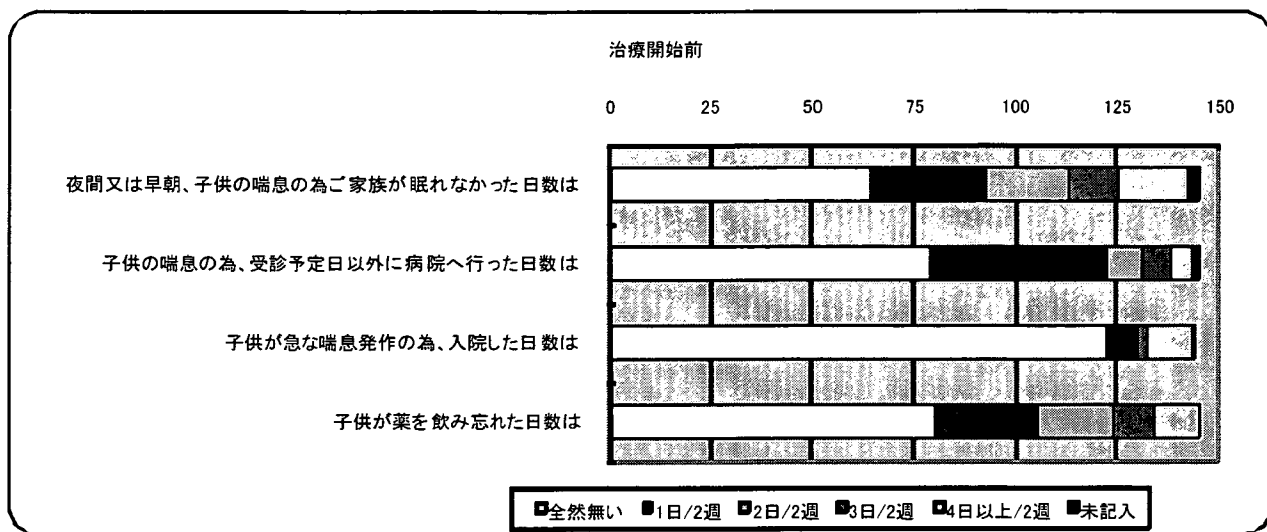


図 23. 治療開始前後の Q O L 項目 ( 1 ) の推移 ( 小児喘息 )

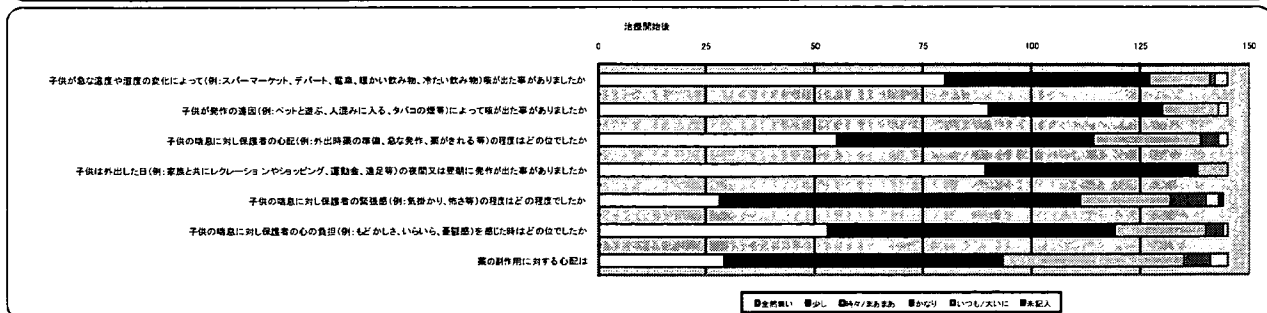
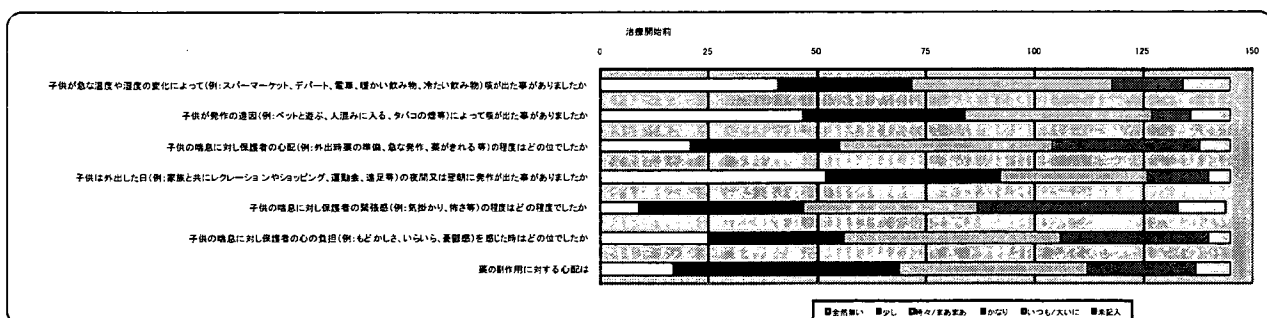


図 24. 治療開始前後の Q O L 項目 ( 2 ) の推移 ( 小児喘息 )

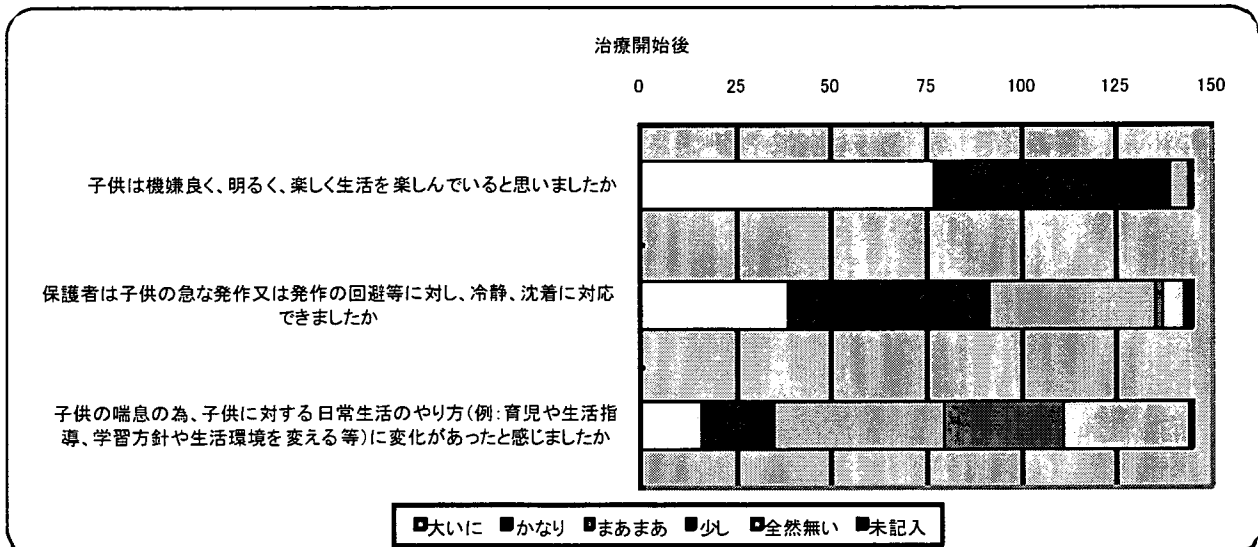
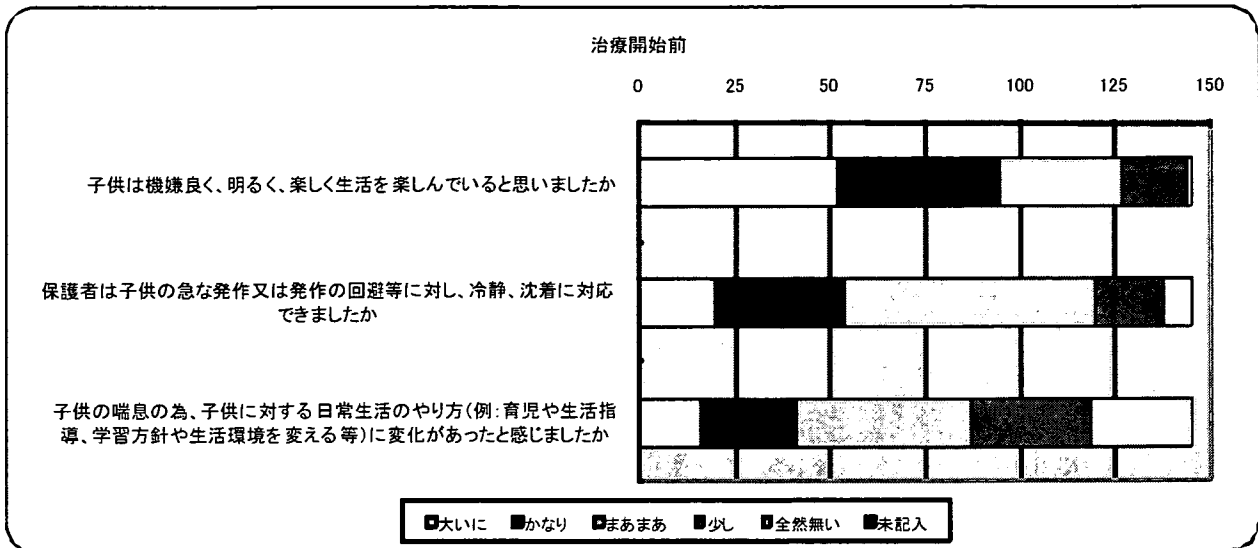


図 25. 治療開始前後の Q O L 項目 ( 3 ) の推移 ( 小児喘息 )

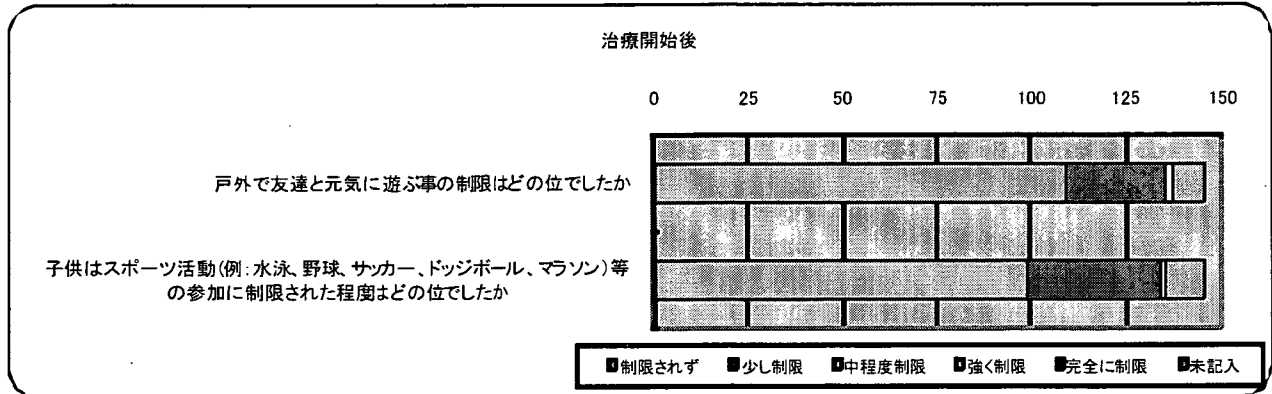
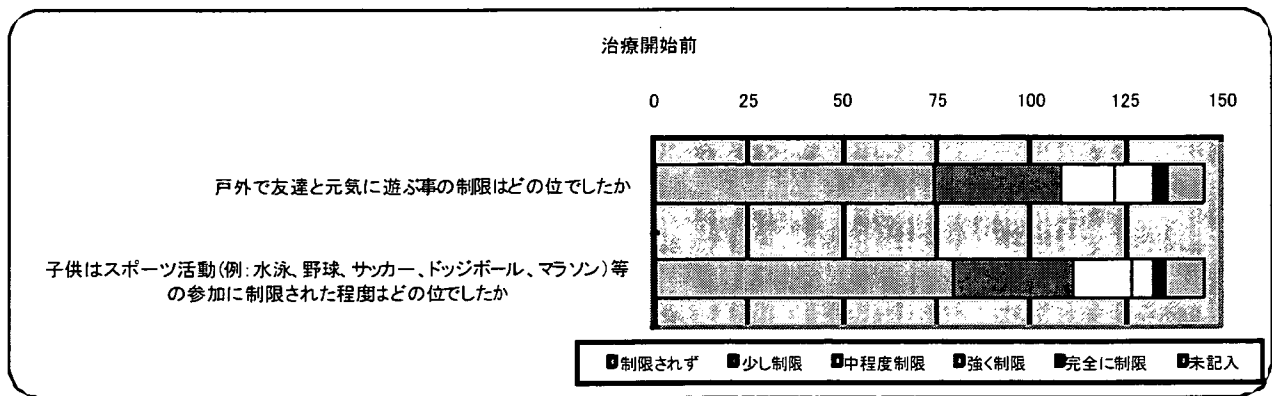


図 26. 治療開始前後の Q O L 項目 ( 4 歳以上 1 ) の推移 ( 小児喘息 )

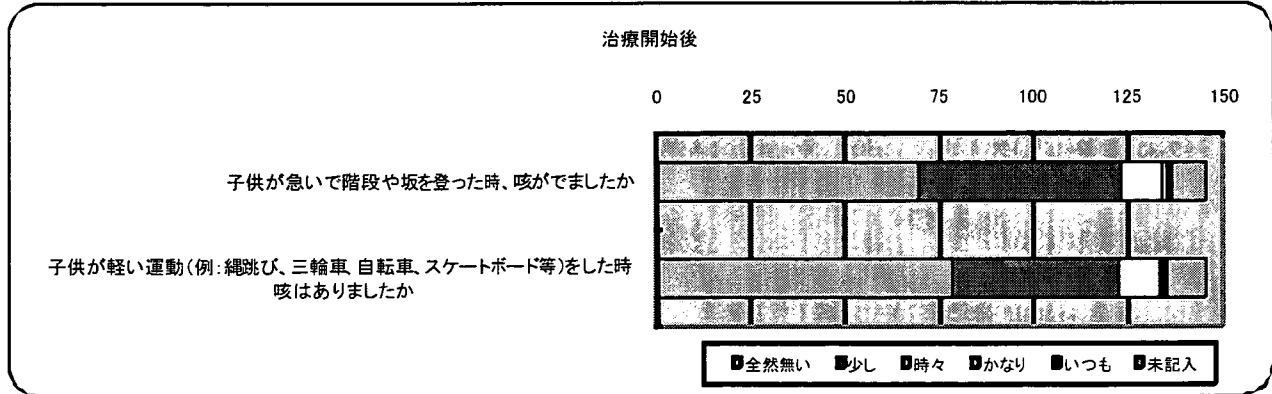
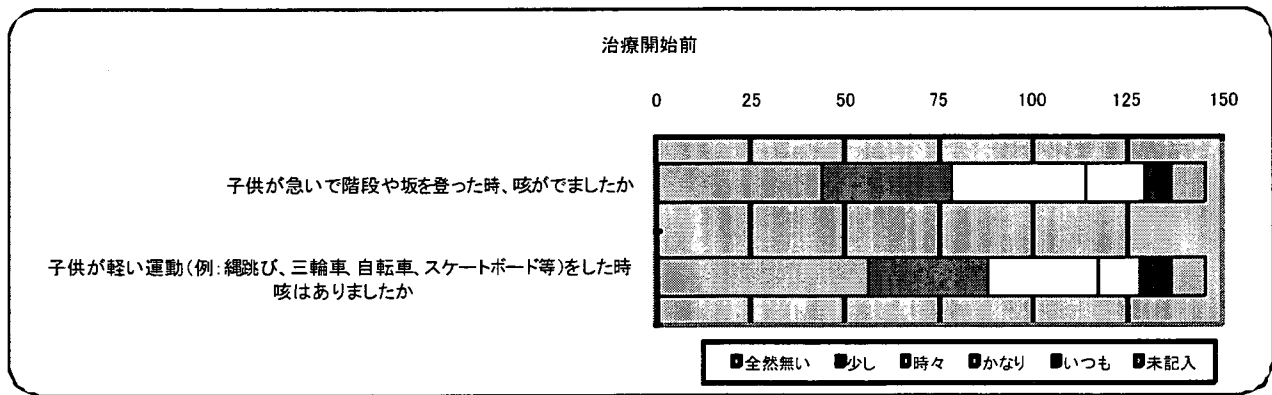


図 27. 治療開始前後の Q O L 項目 ( 4 歳以上 2 ) の推移 ( 小児喘息 )

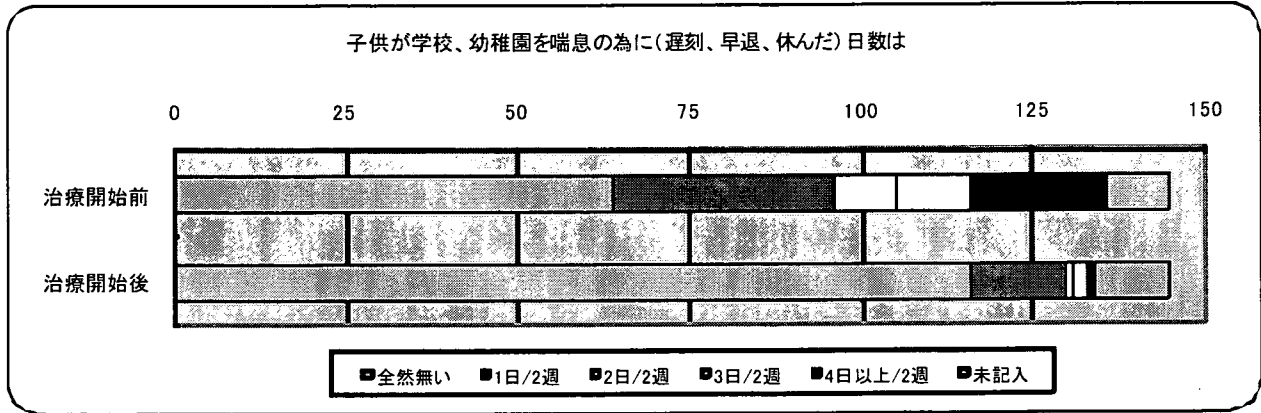
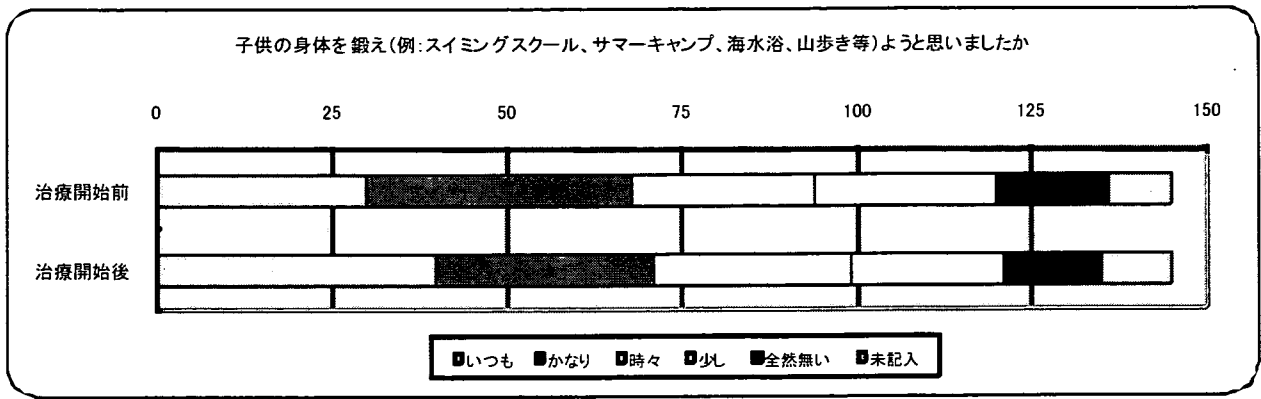


図 28. 治療開始前後のQOL項目(4歳以上3)の推移(小児喘息)

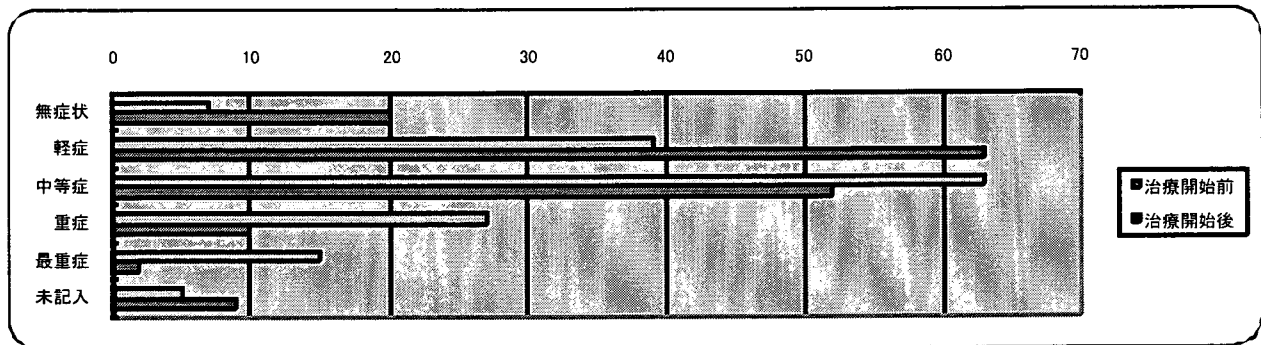


図 29. 治療開始前後の重症度の推移(鼻アレルギー)